



# 続 謙澄を追ふ人々

題字 棚田看山

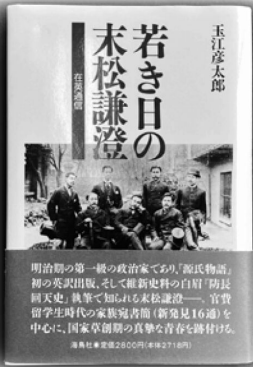
完

この連載の最後に末松謙澄研究に多大な貢献をした玉江彦太郎氏をとりあげたい。

私が玉江氏の謙澄研究を知った端緒は、「近代文学研究叢書・第二十巻」(一九五五年)の「末松謙澄」からである。これは六十六ページにわたる本格的な研究書で、このなかに「謙澄の末弟の孫にあたる郷土史研究家玉江彦太郎氏の『宇都宮落城記』(序文)によると、末松家の祖先末松加賀守は築上郡海老名の城主で、城井宇都宮家の老職であった」と記していたことから、初めて玉江氏の研究を知った。私も少しずつ謙澄の資料収集を始めた。

玉江氏は江戸・明治期の豪商船屋の子孫である。また、謙澄の弟凱平の孫にあたる。だが、著書の記述は客観的でかたよったところがない。なによりも末松家、縁戚関係の家に残された資料を探索し、公表された功績は大きい。その成果として著書『青萍・末松謙澄の生涯』(一九八五年)、『若き日の末松謙澄 在英通信』(一九九二年)をあらわしている。

玉江氏は「美夜古文化懇話会」の設立時の発起人の一人であるが、その機関誌「美夜古文



## 謙澄研究の先駆者～玉江彦太郎～

化」をはじめ小倉の「記録」、福岡の「西日本文化」、新聞などに精力的に研究論文を発表して、多くの人に謙澄の功績が知られるようになった。玉江氏にお会いした時、謙澄のことをお尋ねすると、こころよく教示してくれ、「これからもつと佛山先生、謙澄さんを調べなさい」と励まされた。

一九七九年、玉江氏の発案で「末松謙澄顕彰会」が発足し、碑の建立のための諸準備、募金が始まった。会長は友石孝之、統括は玉江彦太郎、事務は山内公二の諸氏。私は説明板に書かれる謙澄の年譜の作成を担当。「末松謙澄生誕之地」碑は謙澄の生誕二一五年、没後六十年の一九八〇年十月に建立した。

玉江彦太郎氏は民話、俳句、近代史などの著書も出版しているほどの幅広い文化人だった。日本銀行、北九州銀行協会、行橋市監査委員などをつとめる激務の中での執筆活動には感心させられる。謙澄が刻苦努力して「知の巨人」、「あくなき知識欲の人」などといわれているが、玉江氏も大いに触発されたのであろう。二〇一〇年一月二十日、逝去された。

末松謙澄顕彰会 城戸淳一